

αオリゴ糖

「小腸」と「大腸」での
認知症予防を示唆

シクロケム

シクロケム(東京都中央区、03-6026-1511)は、環状オリゴ糖の一種・αオリゴ糖(α-シクロロデキストリン)の「小腸」と「大腸」における有効性に着目し、認知症予防対策へ

の活用を提案している。国立長寿医療研究センターの研究では、認知症患者の腸内細菌叢を解析したところ日和見菌の一種であるバクテロイデス菌が有意に少ないことが、さらに、バクテロイデス

菌の少ない人は、多い人に比べて認知症の発症リスクが約10倍に達することが報告されている。

一方、同社ではαオリゴ糖が大腸内のバクテロイデス菌を増殖させ、酪酸やプロピオン酸といった短鎖脂肪酸の産生量を増加させる効果を確認し、2018年に論文発表を行った。加えて、昨年1月には青山学院大学、慶應義塾大学などの

研究グループがヒト臨床試験でαオリゴ糖の腸内におけるバクテロイデス菌増殖作用を介した持久運動機能向上効果を確認し、論文を発表している。

こうした研究から、αオリゴ糖は大腸内のバクテロイデス菌を増殖させることで、認知症の発症リスクを低減する効果があると考えられている。さらに、糖尿病は認知症の重大な発症リスクと

して知られており、血中HbA1cが7%を超えると発症率は49%に達するとの論文もある。

糖尿病対策は認知症予防の観点からも非常に重要と言え、αオリゴ糖は①小腸で消化液中のレンチンを包接し、糖新生を抑制する、②インクレチンGLP-1の活性を向上し、インスリンの分泌を促進する、③α

グルコシダーゼの活性を阻害し、糖やでんぷんの吸収を阻害する、という3方向のアプローチで抗糖尿作用を発揮することが期待される。糖尿病治療薬のような副作用がないこともメリットだ。

同社では、今後もαオリゴ糖の有するさまざまな機能性を探索していくとともに、その認知拡大にも注力していく考え。